

○事例発表会 意見交換会 まとめ

【保護者自身のAIの捉え方】

- 便利なツールとして積極的に活用すべきと捉えている保護者が比較的多い一方で、使ったことがない保護者からは心配する声も出ている
- リスクについても、あまり神経質にならない方がよいとの意見がみられる反面、警鐘を鳴らす声もあった
- ⇒ 保護者が実際に使ってみる機会を設け、その良さや危険性をしっかり理解することが必要

ご意見例)

- △検索などに利用しているが、インターネット検索より時間短縮でき便利
- △プレゼン資料の作成など非常に有効
- △グループラインで連絡する時や、友達に意見を言いたいが強過ぎるのは相手を怒らせてしまうのでAIに文面を考えてもらい参考にしている
- △活用の仕方を誤らなければ活用すべき
- △これから時代に必要なものであり、道具として活用すべき
- △時短が出来るので素晴らしいアイテム
- △いずれ、携帯電話やSNSのように普通に受け入れられていく事になるのでは
- ▼使い方次第で恐ろしい事になってしまうかも、という不安はある
- ▼安全性が不安、本物との見分け方が心配
- ▼利用しているが、この先自分の思考が低下してしまうのではないか、と考える時もある
- ▼私は古い考えなので、頼り過ぎは恐いと思ってしまう
- △昔は紙媒体から情報を得ていたが、それがAIになっただけ、紙から得た情報の真偽は自分で判断していた
- △情報の真偽はこれまで自分で判断してきた
- ▼AIはっている本人を超えることはない
- ▼自分の知識以上のものはAIでは生み出せないのでないか
- ▼人と人とのやりとりが大切であり、AIでは教えられないこともある

【子供たちの活用状況をどう見ているか】

- 子供たちの利用は進んでおり、使い方も注意していると感じている保護者が多い
- AIが示した情報について保護者に意見を求めるなど、AIを通じて子供とのコミュニケーションがとれたとの声が聞かれた一方、使い方によっては依存症などを心配する声もあった
- ⇒ 子供の利用の仕方を家庭で対話しながら見守るスタンスが求められる

ご意見例)

- △子どもたちの方が親よりはるかに活用していくことは間違いない

- △子供は作文の参考に使うようだが、全部コピーはしないと言っている
- △親よりもよく考えている様子
- △子供は英語の添削などの学習に利用している
- △子供の感覚には、使いこなせないことが恥ずかしいという気持ちがあるようだ
- △子供からAIが提示した内容について、親として意見を聞かれることがあった
- △子供がAIの提示した内容をみせに来て、どう思うか聞いてきたが、親子のコミュニケーションにつながることもあるのでは
- ▼冗談でAIを「彼氏」と言った女子高生がいたとのことで、否定しない、強い口調で返さないAIとのやりとりは楽しいそうだ
- ▼チャットGPTに名前を付けて呼ぶなど、依存症になる心配はある
- ▼子供がAIを鵜呑みにしそうでいる部分があつて心配
- △便利なのでこの先も使いこなして行き、子供達にも理解して利用してほしい
- △大事なことは使い方であり、大いに使うべきと考えるし、そこに学びがあるとも思う
- △AIの活用は、これから必須なので、子供の使い方を見守っていくことが大事

【今後のAIに対する向き合い方】

- これから時代、AIは必要不可欠であり、道具として効果的に活用する力を身に付けてほしいという意見が大半
- 親として、どう子供に接するか、悩む声も聞かれた一方で、子供と一緒に学んでいくことが大事との前向きな姿勢が多くみられた
⇒ 保護者が“伴走者”として子供とともに学ぶためには、学校はもちろん、PTAなども積極的に情報発信に努め、考えるきっかけを与えていくことが重要

ご意見例)

- △これから子供たちはAIを利活用するスキルを身に着けていくことが大事、使われる人間になってはいけない
- △AIはこれから時代に必要なものであり、道具として活用すべき
- △誤った情報などを見抜く力が必要で、使いこなせるようになることが大事
- △相談は構わないが、決定は自分の意志で行ってほしい
- △効率的なものは任せ、疑問は鵜呑みにせず、自分で調べる姿勢を持ってほしい
- △子供は使う世界していくので、子供の使いこなす力が大事
- △AIに聞く力が必要で、高校生も身につけなければならない力ではないか、現状は高校生もteamsやAIを使いこなせていない
- ▼失敗をしながら物事を進めていくことも必要
- ▼自分の頭や能力を使っていくこととのすみ分けが必要
- ▼子供に使い過ぎないような指導を、どう工夫して言って行けば良いか難しい
- ▼スマートフォンが出始めた時と一緒で、絶対にダメ！では無いけれど使い過ぎないでいてほしい、をどう伝えて納得してもらえるかが悩み
- △大人も子どももAIの道具としての理解、使用方法を勉強していかなければならない

- △親も子どもと一緒に活用の仕方を学んでいく必要がある
- △A Iは必須、親も学習していく必要がある
- △親に相談しても無駄と思われることがないように親も学んでいく必要がある
- △何のためにA Iを使うか、目的をはっきりさせて有効に活用できるように指導することが学校でも大事

【その他、様々な視点から出た意見】

- 子供たちが幅広い知識を簡単に得られる状況の中で、実体験などの重要性を改めて認識する必要もあるのではないか、
- A Iの活用は社会全体で考えるべき課題であるが、その対応について、懸念する声があった
- 学校でのDXを進め、子供と向き合う時間を生み出してほしいという、教員の業務改善に対する期待の声もあった

ご意見例)

- ▼A Iの活用で様々な情報が取得できるようになり、親の知識より子供のほうが知っていることが多いように思えるが、知識の吸収には経験も必要ではないか
- ▼短歌などは実体験のある生徒の作った作品の方がA Iの作品より評価する生徒が多い
- ▼アメリカでは国で規制している13歳以上、日本ではA Iの企業が規制しているのみ（マイクロソフトでは制限を付けており、学校アカウント用のコパイロットは制限がある）
- ▼A Iの問題点をどこが伝えていくのか、はっきりしていない
- ▼個人情報の取り扱いを気を付けるべきではないか
- △教職員の皆さんがあ Iを活用し、業務改善をして時間的なゆとりを生み出し、その分を子供と向き合う時間に充てて欲しい

【今回の事例発表会に関わっての意見】

- 今回の事例発表会をこれで終わりとするのではなく、各校のICT教育やPTA活動の充実につなげていくことが大事とのご意見もあった
- ⇒ 今回の事例発表会を契機として、各校での取り組みが活性化していくような方策を検討する必要がある

ご意見例)

- △LINEのブロック機能はPTAの要望を受けてできたと聞いている、PTAがこうした問題を考えることは非常に大事、意義がある
- △今回のような講演を取り入れ、各校がICT教育の充実に生かしていく必要がある